

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「自らのロータリーストーリーを
作りましょう」

高田ロータリー
今年のスローガン

「善意を深め、
奉仕の力を昂めよう」



インスピレーションになるろ

2018～2019年度

国際ロータリー会長 バリー・ラシン
2560地区ガバナー 川瀬 康裕
高田ロータリー会長 牧野 章一
幹事 佐藤 教彦

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
堀井 靖功 岩崎 幹男 宮川 大樹

第36回例会 ■ 4月26日(金)

No.36

会長挨拶 ● 牧野 章一



皆さまこんにちは。

ご案内のように、大島精次パスト
ガバナーが19日ご逝去されました。
享年83歳でありました。大島パスト

トは、1975年（昭和50年）12月に
入会され以来45年に渡る当クラブの会員であり
ます。その間、1990-91年度（平成2～3年度）
36代目の会長を勤められました。ちなみに、幹
事は東山昕也パストガバナーでした。

1994-95年度（平成6～7年度）にガバナーに
就かれました。当時のRI第2560地区は新潟と
群馬でありました。新潟52クラブ、群馬40ク
ラブ会員数5,623名と記録されています。

越後春日山ロータリークラブは大島ガバナーの
強い思いから皆さんの協力を得て生まれたクラブ
であります。これについては、昨年8月の会員卓
話、羽深耕時さんのお話が記憶に新しいところ
であります。

当クラブ輩出のガバナーは東山昕也さん、そし
て大谷光夫さんへ引き継ぎました。このお二人に
とっても大島さんは心強く大切な存在であったと
拝察しております。

豊かな職業経験に併せて、地元とロータリーの
豊富な知識・情報をもって、地域の振興にこだわ
り続けた、言葉を変えると地域の発展に責任を
持った大島精次さんへ当クラブは、心からの敬意
と感謝を申しあげる次第であります。

本日は、平成最後の例会です。平成に入り通算
第1,444回の例会です。平成のRID2560を駆け抜
けた大島さんに思いを馳せ、貴重な時間を過ご
したいと思います。

今日の卓話は、高田税務署 所長 飯島 隆様で
す。テーマは「酒のおはなし」です。ご期待くだ
さい。

出席報告

出席率 98.0%

セレモニー

米山記念奨学生奨学金贈呈・紹介及び一言
周 勝男さん

委員会報告

出席ニコニコBOX委員会

高坂光一君——4月18日、長女が初孫を産み、

とうとうおじいちゃんになりました。とにもかくにも元気に育ってくれればと願います。因みに男の子、名前はまだです。

地区研修・協議会実行委員会（飯塚副幹事）——
5/11 地区研修・協議会について

会員インフォメーション

佐藤信明君——5/7～9 第20回お花とお茶と木のかほりのご案内

吉原耕一君——5/7～6/30 おためしフェア・初夏のスパークリングフェア、6/8スパークリングと和食を楽しむ初夏の夕べのご案内

幹事報告

配布物：週報No.35、ロータリーの友5月号
報告：5月3日・10日は休会日です。

卓話 酒のおはなし



高田税務署 署長 飯島 隆 様

講演では、お酒ができるメカニズムについて科学的に解説いただくとともに、国税庁が実施する様々な支援策・お酒の輸出促進や国際交渉について、多くの写真を用いユーモラスに説明し、適正飲酒の必要性や10月1日からの消費税軽減税率についても紹介されました。その概要を紹介いたします。

「酒類業の健全な発達、①酒類業の経営基盤の安定を図るとともに、醸造技術の研究・開発や酒類の品質・安全性の確保を図る。②酒類に係る資源の有効な利用の確保を図る。」ことがあるからです。

発酵のまち上越。日本酒は高田税務署管内の上越市・妙高市に酒造場は15場あり、関東信越国税局内で第2位というくらい酒蔵が多く、日本ワインの父とも言える川上善兵衛が創業した「岩の原葡萄園」も存在している。その他、平成15年に、日本初の「どぶろく特区」として上越が先駆けで認定されており、また発酵食品として他に例を見ないユニークな調味料「かんずり」・味噌・しょうゆがあります。酵母の発酵システムとは、酵母という微生物が糖分を食べて二酸化炭素とエタノールを排出することでふっくらしたパンの製造やお酒として飲用できることとなります。発酵にかかる地元の名士「坂口謹一郎氏・川上善兵衛氏」もおられる上越です。

国税庁が酒の権利を持っているということは、我が国の国税は、酒税というのは安定性のある国の財源であり明治時代では、税収の中で酒税は1・2位を争う程の税金であった。現在では、少子化高齢時代や酒離れ傾向も強くなり酒税は全体で2～3%にしかならない。しかし、酒税を取らないと国の財政が成り立たず、お酒をうまい具合に作り、醸造技術指導を行い、それらを国税庁がしっかり管轄することで安定的な国財源に繋がっている。また、少子高齢化・若年層の酒離れ傾向から国税庁では、酒税の保全と酒類業の健全な発達を図るため様々な取組を実施し、そして、日本産酒類の輸出促進に向けた取組として、国内外における情報発信強化・発信力のある物に向けた啓発・輸出環境整備を実施している。日EU・EPA国際交渉でEU関税や輸入規制の撤廃、日本GIの保護を通じ、日本産酒類の競争力を高め、新たな市場を確保することやワイン表示ルールの策定・日本産酒類のブランド力向上のために取組をしている。今では、日本産ウイスキーを出せば出すほど

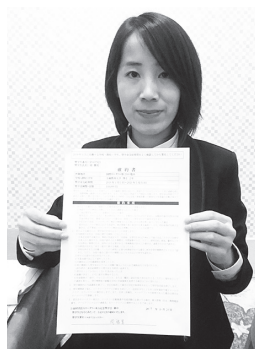
なぜ、国税庁が酒の話をするのか？それは、国税庁の任務として3つの中で2番手にあたる「酒類業の健全な発達」を図ることや国税庁の使命中で

売れるようになり、国税庁としては、酒税の財源は確保はなくしても、酒類業の業界が活躍することで経営基盤が安定に繋がっていくことになる。

我が国においてアルコール飲料は、生活・文化の一部として親しまれてきているが一方では国民

の健康保持という観点からの考慮が必要である。アルコール飲料は、一般食品にはない致酔性・慢性影響による臓器障害・依存性・未成年者への影響・妊婦を通じた胎児への影響が挙げられる。適正飲酒を心がけすることが重要である。

自己紹介 ローターリーでの出会いが人生の宝物になると思います



奨学生となるにあたっての確約書を手にしての自己紹介です。

①周勝男（シュウ ショウナン）と申します。

「勝男」は中国語では「ShengNan」と読み、男に勝つという意味で、女性の名前になります。また、類似した意味の名前としては「冠男」「亜男」などがあります。一方で、日本語では「カツオ」と読み、優秀で立派な男という意味で、男の名前になりますが、今後、私のことを「かつおちゃん」と読んでもらっても大丈夫です。(*^_^*)

②出身地は中国の河北省（かほくしょう）です。

河北省は北京に一番近い省で、中国の北のほうにあります。河北省衡水市生産の「老白干」（LaoBaiGan）というお酒が全国で有名です。また、「衡水中学」（HengShuiZhongXue）は「大学入試の工場」と呼ばれる高校も全国で有名です。そのほかは「承徳の避暑山荘」、「万里の長城」が世界遺産として、全国ないし世界で人気な観光地です。

③2007年から、日本語を専攻として大学で4年間勉強していました。卒業後、北京で日本語教師を約3年間やっていました。対象が日本留学を目指した学習者は多かったため、現在、数十人の教え子が日本にいます。彼らの影響で、自分も東京にある日本語学校で9ヶ月留学したことがあります。帰国後、北京にある短期大学で日本語講師を

米山記念奨学生 周 勝男さん

しながら、日本大使館の近くにある漢語学校で日本人に中国語を教えていました。

④2016年に再び日本に留学して、上越にまいりました。現在は兵庫教育大学連合大学院博士課程二年です。連合大学院は上越教育大学、兵庫教育大学、岡山大学、鳴門教育大学、滋賀大学、岐阜大学から構成しています。私は修士の時から上越教育大学の釜田先生にご指導を頂いておりますから、現在は上越教育大学に配属しております。また、同大学国際交流センターのサポーターとして、外国人児童生徒の修学支援プロジェクトに参加しております。研究もそれと関連があるため、ことば・言語文化、異文化理解教育、国際理解教育に大変興味・関心を持っております。博士終了後、大学の先生になりたいです。

⑤研究以外、バトミントンや中国の将棋が好きですから、研究のストレスを解消するため時々やります。それ以外は日本の番組や英語の映画やドラマも好きです。また、上越は豊かな自然に恵まれるところなので、春日山に登ったり、町中を散歩したりするのも好きです。

これから、お世話になります。ロータリーでの出会いが人生の宝物になると思います。研究で忙しい毎日ですが、積極的にクラブの例会や社会奉仕活動に参加し、有意義な二年間を過ごしたいです。今後、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。